

平成 24 年度第 1 回練馬区消防団運営委員会要点記録

1 日時

平成 24 年 5 月 14 日 (月) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分まで

2 会場

練馬区役所本庁舎 7 階災害対策本部室

3 委員長および委員の出欠状況

(1) 出席者

櫻井委員、高橋委員、小林委員、田中委員、斉藤委員、浅沼委員、橋本委員、鈴木委員、笹原委員、馬場委員、中村委員、鳥海委員、小池委員

(2) 欠席者

志村委員長、小泉委員、篠田委員、野上委員

4 議事内容 (要旨)

(1) 開会

【司会進行】

本日の内容は、平成 23 年 8 月に東京都知事から諮問された「東日本大震災を踏まえ、地域特性に応じた即時性の高い消防団活動について」に対する答申についてご審議いただく。

本日は、委員長である練馬区長が公務のため出席できない。委員長の代理については、都の条例に基づき、練馬消防署長が務める。

(2) 委員長代理あいさつ

【委員長代理】

委員長の欠席に伴い、本日の委員長代理を務めさせていただきます。

本日は、前回の委員会に引き続き、都知事からの諮問事項に対する答申 (案) についてご検討いただく。

本日の委員会もよろしく願います。

(3) 新委員の紹介

【司会進行】

(新委員の紹介を行う。)

(4) 議事

【委員長代理】

次第に沿って議事を進行する。

前回の審議を踏まえ作成した答申 (案) について、幹事署の練馬消防署から説

明をお願いする。

【事務局】

(答申(案)の説明を行う。)

【委員長代理】

ただいまの説明に対し、ご意見ご質問等があれば伺いたい。

【橋本委員】

14 ページに、「区民防災組織や防災会と連携強化を図り、町会・自治会等との絆、相互の信頼関係を構築する。」との記載があるが、これについて具体的な計画をお聞かせ願いたい。

【事務局】

各消防署によって連携の図り方は異なっている。練馬消防署の例を申し上げますと、防災コンクールという大規模な行事を年に一度開催し、その場において、消防団員が訓練指導や大会の援助などを行うことで、様々な情報を共有し連携を深めている。

その他として、日頃からの避難拠点訓練および防災訓練などにおける消防団員の積極的な参加を通じ、町会・自治会との連携強化を図っている。

【委員長代理】

その他、ご意見ご質問はあるか。

【斉藤委員】

14 ページに関連して、消防団の分団本部施設の用地確保や訓練場所等についても限定されていると聞いている。このような答申を受けて、分団本部施設の用地確保について、どのような進捗状況なのかお聞かせ願いたい。

【委員長代理】

それでは各署担当から分団本部の整備状況についてお答えいただきたい。

【事務局(練馬消防署)】

練馬消防団では、第5分団および第8分団の分団本部施設が整備されており、第1分団で着工予定である。

【事務局(光が丘消防署)】

光が丘消防団では、第3分団、第4分団の整備が終わっている。その他の分団については、分団本部の敷地確保について進めているところである。

【事務局(石神井消防署)】

石神井消防団では、10個分団のうち、5個分団の分団本部の整備が完了している。その他の5個分団については、これから整備ということである。

【斉藤委員】

答申(案)でこのようになっているので、早急な整備をぜひともお願いしたい。

【田中委員】

東日本大震災のような震災とは違い、練馬では津波はこないと言われており、建物の崩落による圧死とその後の火災による被害が大きいと思われる。私も消防団員なのだが、今の活動の現状としては、普段火事が起こった時に、消防団員は現場で消防署の片付けを手伝うことぐらいである。ここに、震災時に消防団員が

筒先を持たなければならない状況になった時の長時間の災害活動を展開するための訓練が必要だと書いてある。

我々が消防団員として感じるのは、長時間の消火活動をするにあたって、分団の中に筒先を持てる人間が何人ぐらいいるのかということである。私はポンプ操作大会の1番員などで持ったことがあるが、持ったことがない団員も多分いるのではないか。そういう現実的な訓練をどのように考えているのか伺いたい。

【事務局（練馬消防署）】

練馬消防団の場合は、消防署隊の活動訓練に分団員に何人かずつ参加していただき、何年かで全員が放水を体験するというところを行っている。

それから、毎年の震災訓練で消防団にも長時間にわたって参加していただいて、震災活動は長いということをしつづつ浸透させている。

【田中委員】

私も一度、消防学校で一日筒先を持つ訓練を行ったが、消防学校に行かなくても、普段の分団での訓練の中で筒先をどれだけ持てるかという訓練はこれから必要になってくると強く感じている。

後は、ポンプ機関員の問題である。やはり、ポンプが動かせなかったら水が出ない。きちんと機関員を出来る人をもう少し養成した方がいいと思う。

【小林委員】

12 ページの危険度調査のところ、防災マップ関係で7件の意見があり、各分団の地域特性を活かした独自の防災マップを作成する必要があるという意見があるようだが、これは今後作成するのか。

【事務局（練馬消防署）】

練馬消防団では、もう既に各分団で消火栓や危険区域などを記載した分団の受け持ち区域についての地図を作成中である。

【事務局（光が丘消防署）】

光が丘消防団では、区の防災地図を活用している。管内全域で全消防団員を集めて、ミニ防災井戸から簡易水槽に水をためて、町会内のブロック火災対応訓練をやっている。

【事務局（石神井消防署）】

石神井消防団については、消火栓云々という地図については分団ごとに独自に作成しているので、消防署の方では把握していない部分もある。

ただ、石神井では、今、河川を利用した貯水シートというものを活用した訓練に力を入れていきたいと考えている。

【委員長代理】

その他、ご意見、ご質問はあるか。

【高橋委員】

先ほど斉藤委員からも話があったが、14 ページの分団本部の施設の件で、私は区議会から都議会に初登庁して以来11年間、分団本部を早急に整備すべきだと訴えてきた。当時は、水道もトイレもないような分団本部があった。分団本部施設の用地がない、取得が困難だということなので、東京消防庁に、まず、都の局

間で敷地についての情報交換をして用地を確保すべきだという話をしてきた。しかし、なかなか前に進まない。進んだものもあったが、進みが遅かった。

ただ、その当時は正直なところ、分団本部の整備は都の事務で、区はその次の話だという感覚の区長も結構いた。それはつまり、東京消防庁から用地確保についての苦労話が区に伝わっていなかったということであったので、東京消防庁の方から23区の各区長宛に用地の取得に関して協力してもらいたいという文書を出すべきだという話をした。その後、各区から用地に関する情報が入ってきて、整備のスピードが上がってきている。

そこで、練馬区内の分団本部について、区からの情報でできた用地確保は、どれくらいあるのか伺いたい。

【委員長代理】

先ほどの内容と重複している部分もあると思われるが、区の用地に分団本部が設置されているものについてあらためて報告いただきたい。

【事務局（練馬消防署）】

練馬については、三つの分団本部が整備されているが…

【高橋委員】

練馬だけの話ではなく、区内でお答え願いたい。

【事務局】

(区内消防署で各団の状況を確認し合う。)

【高橋委員】

この答申（案）にも書いてあるが、そういう情報は区内の各消防署で共有していかなくてはいけないと思う。分団本部の整備が区内で偏ってもそれはしょうがない。用地を確保することができたら、積極的に、できるところから分団本部の整備を一日も早くすべきである。このような質問が出ることは当然想定されるわけであるから、事前に話し合っておくべきである。

これ以上答弁を求めないが、ぜひ分団本部の情報について共有しておいていただきたいと要望しておく。

【委員長代理】

その他の意見等はどうか。

【各委員】

(発言なし)

【委員長代理】

それでは、以上をもって、今回の審議を終了する。

次回の運営委員会では、今回の審議等を踏まえて、答申のまとめを行う。

以後の進行は事務局にお願いする。

(5) その他

【司会進行】

つづいて、その他事項に移る。

答申（案）以外でご意見、ご質問等あれば伺う。

【各委員】

(特になし)

【司会進行】

ご意見等なければ、その他事項を終了する。

閉会に先立って、消防団長を代表して練馬消防団長よりあいさつをいただく。

(6) 代表団長あいさつ

【中村委員】

本日は、大変お忙しい中、第2回の練馬区消防団運営委員会に集まっていたいただき感謝申し上げます。審議を重ねて、答申もほぼ完成したようである。もう1回、7月にあるということなので、3回目で審議いただいて、都知事への答申としていきたい。

(7) 閉会

【司会進行】

これで、本日の消防団運営委員会は全て終了である。委員の皆様のご協力により、円滑に議事を進めることができたことに対して御礼申し上げます。

次回の委員会は7月の中旬から下旬を予定している。日程を調整してあらためて開催通知をご案内させていただくのでよろしく願います。

以上で本日の消防団運営委員会を終了とさせていただきます。